

女性チャレンジ応援拠点だより 2022 5月

〇●〇 コラム【いざ 2022 年本番へ！】〇●〇

5月、新緑が清々しい季節です。新年度開始から1ヶ月、当年の計画が本格的に動きだします。これから年末までの8ヶ月が年度の本番といえるのではないのでしょうか。「造幣局の桜の通り抜け」が実施され、祇園祭の山鉾巡行も今年は予定されています。「コロナ」から3年目、「ウクライナ侵攻」に目をこらしつつ、社会は前へ進んでいっています。



「拠点だより」は今月から新しいテーマ、『チャレンジ再発見—思いのほかあなたを拓くアプローチ—』です。

「女性チャレンジ応援拠点」も掲げる〈チャレンジ〉、“それが当事者にもたらす恩恵は想像以上に大きい…?!”、という「気づき」からのテーマ設定です。「with コロナ」に「大国の暴挙」が絡まり、わたしたちを取り巻く環境はこれまで以上に〈先が読めない〉状況ですが、それでも前に進んでいかなければならないし、進んでいこうとするあなたとわたしを、〈チャレンジ〉が支えてくれる、そんな風にも考えてのことです。

初回の今月はオープニングとして、「〈チャレンジ〉を志向する人、しない人」です。まずは「チャレンジ」の意味をあらためて確認しておく、「困難な問題や物事に積極的に立ち向かう、未経験なことなどに取り組む」です。個人レベルなら「自分にとって」ということが前書きに加わるわけですが、「なにも自分から好んでシンドイおもいをしなくても…」という人も少なくありません。心底そう思う人は、自身の志向性に合っているのですから、無理にチャレンジする必要もありません。一方、シンドイとはわかっている、挑みたいと考える人もいます。この「拠点だより」を読まれているみなさんの多くがそうだろうと思います。

どちらがいい・わるい話ではなく、自分自身の志の向きにそって未来にむかって進んでいくことが、結果的に自身の「しあわせ」につながりますね、ということです。志向は違っても、個々人の目指すところを生き延びて、社会の多様性がつくられるのですから。

ちなみに、劇作家・演出家の平田オリザさんがコミュニケーションに関する2015年のワークショップで、『コミュニケーションは能力の問題ではなく、意欲の問題。現在の国際社会が求めるのは「協調性」よりも「社交性』』と話し、『個々人の考えは違って当然。友人にならなくても、敵になるのはやめましょう』と説いていました。今の世界情勢をみるにつけ、また、チャレンジの先に待っている多様な人々との交流、交渉、協働の必要性を考えると、示唆に富んでいて、ココロにとめておきたい言葉です。

さて、〈チャレンジ〉を志向するみなさん、まだ実行に移していないという方も、遅かれ早かれ、チャレンジされるはず。自分自身に準備ができていない、あるいは、今は身の回りの状況が許さない等々、理由はさまざまですが、実行しないと、自分自身のおさまりがつきませんから。

みなさんの〈チャレンジ〉が実をむすび、ライフそのものが『異なるもの味なもの』となるよう、引き続き「女性チャレンジ応援拠点」は、〈あの手この手〉でみなさんを応援していきます。「拠点だより」、リアルに話せる場、等々。「チャレンジは思いのほかあなたを拓く」はず。どうぞ気軽にご利用ください。スタッフ一同、お待ちしております！

女性チャレンジ応援拠点

場所：大阪市天王寺区上汐 5-6-25 クレオ大阪中央 4階
電話&ファックス：06-7659-9640
メール：women-kyoten@danjo.osaka.jp
運営：大阪市立男女共同参画センター中央館

※ 開室日

※日・月曜日、祝日、祝休日の翌日は休室

火	水	木	金	土
10:30 ~ 12:30	18:00 ~ 20:00	13:00 ~ 15:00	10:30 ~ 12:30	13:00 ~ 15:00

※ 開室時間内は自由に出入りいただけます。
お気軽にお立ち寄りください。

